

# 1 市の概要

## (1) 市の市章



観音寺市の頭文字(イニシャル)の「K」を図案化したもので、豊かな自然に恵まれた観音寺市を表し、緑の生育(草木・作物等)、水の流れ(海・川)、太陽の温かさ(人・産業・文化の発展)を表現している。全体像としては、市民の調和と市勢の飛躍発展を象徴している。

## (2) 沿革

観音寺市は平成の大合併により、平成 17 年 10 月 11 日に旧観音寺市・旧大野原町・旧豊浜町が合併し、新「観音寺市」として発足した。この1市2町が合併した新「観音寺市」は、現在人口約 5 万 7 千人、面積は 117.83km<sup>2</sup>で、西讃地域の中心都市として重要な役割を担っている。

旧観音寺市は、昭和 30 年1月1日に観音寺町、高室村、常磐村及び柞田村が合併し市制施行を行い観音寺市となった。同年 4 月 10 日には、栗井村、豊田村及び紀伊村大字木之郷を編入し、さらに翌年の昭和31年9月30日に一ノ谷村、伊吹村と合併して旧観音寺市となった。

旧大野原町は、昭和 30 年2月 11 日に大野原村、五郷村及び萩原村が合併し、町制施行を行い大野原町となり、さらに同年4月 10 日に紀伊村の大部分と合併して、旧大野原町となった。

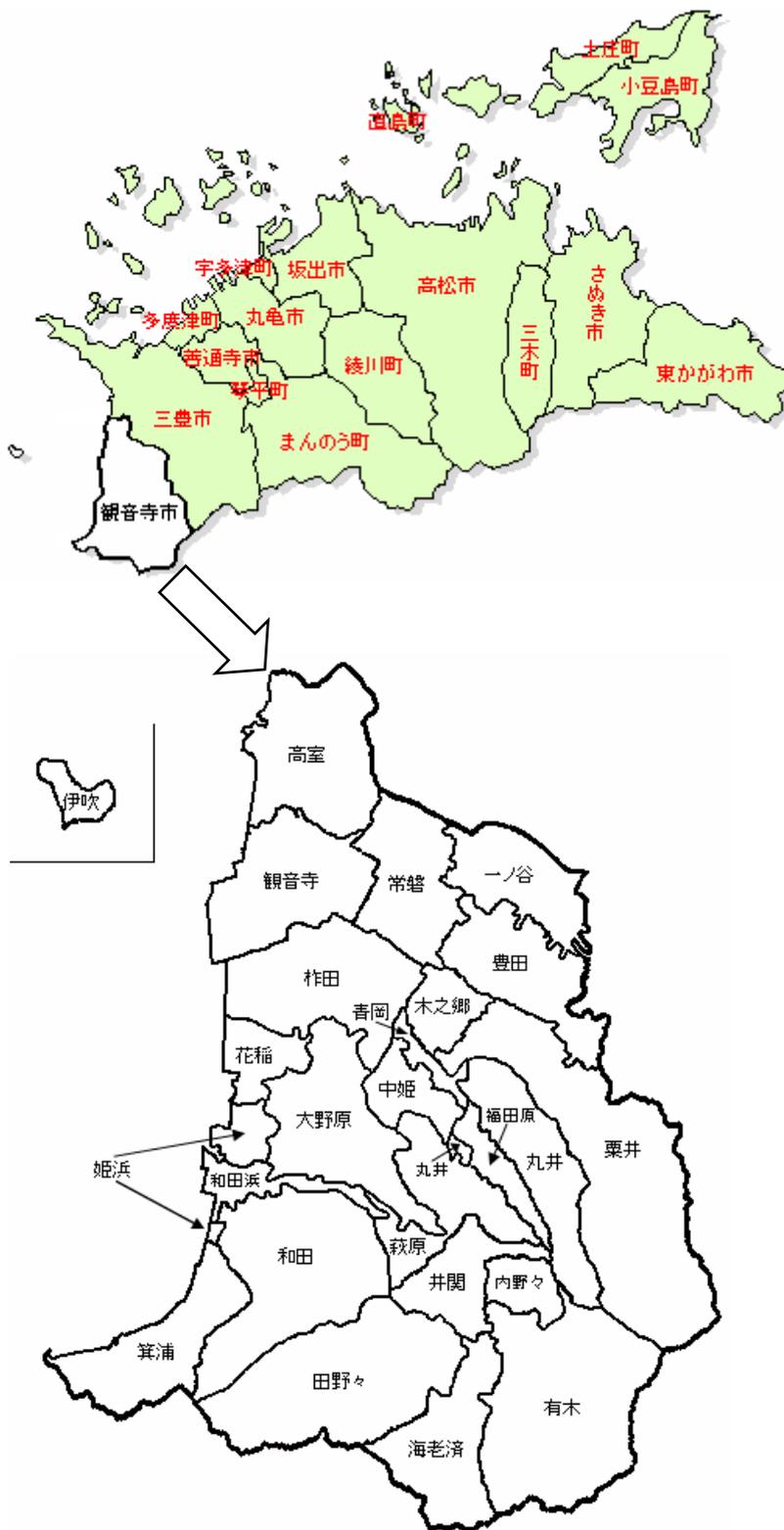
旧豊浜町は昭和 30 年4月1日に豊浜町と和田村が合併して、旧豊浜町となった。

### (3) 位置・面積

観音寺市は香川県の西南部に位置し、西は瀬戸内海の燧灘(ひうちなだ)に面し、沖合いに伊吹島などの島しょを有しています。さらに、四国四県の県庁所在地に車で1時間程度の距離にあり、四国のほぼ中央部に位置しています。

観音寺市の総面積は117.83km<sup>2</sup>で、県の総面積1,876.92km<sup>2</sup>のおよそ6.3%を占めています。

観音寺市の位置

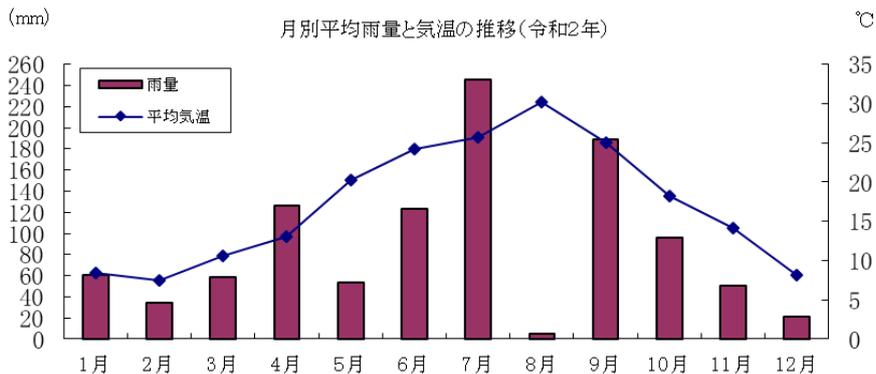


#### (4) 地勢・気候

観音寺市の地勢は、東部から南部にかけては讃岐山脈の雲辺寺山、金見山を経て海岸部に連なる山間地、北部は七宝山などの丘陵地が連なっています。

中央部には三豊平野が広がり、そのほぼ東部から西部に向かって財田川、柞田川などの河川が流れ、豊かな田園地帯となっており河口付近に市街地が形成されています。また、三豊平野にはため池が多数点在し、観音寺市の地勢の大きな特色となっています。

観音寺市の気候は、瀬戸内式気候に属しますが、降水量は年間1000ミリメートル前後で、梅雨期と台風時に集中し、冬季は、平野部において少なくなります。平均気温は摂氏16～17度、最高気温は摂氏35度に達し、最低気温は氷点下3度前後にもなりますが、1年を通して温暖です。



#### (5) 交通条件

観音寺市の幹線交通としては、北東から南西に向かう高松自動車道、国道11号、377号、JR予讃線によって、幹線交通軸が形成されています。特に、高速道路については、観音寺市の域内に大野原インターチェンジを有し、四国横断自動車道と四国縦貫自動車道が交差する川之江ジャンクションに近接しています。

さらに、JR観音寺駅には高松・岡山と松山を結ぶ特急電車が停車するほか、土讃線の分岐点であるJR多度津駅、高松空港など交通の結節点にも近く、四国の中心的な位置に近い立地となっています。

また、地域内交通としては、観音寺市の市街地から放射線状に幹線道路が伸びており、それと交差する形で国道11号、377号などが走っています。JR予讃線については観音寺駅のほか豊浜駅、箕浦駅があり、通勤、通学等の交通手段となっています。このほか、市営交通手段として、のりあいバスが市内6路線を巡回しており、高齢者の通院や生徒の通学手段となっています。また、有人離島である伊吹島へは、1日5便の定期航路があります。



(6) 市のなりたち

(H17.10.11合併)

